

## 「ハイブリッドモデリングによる環境変動適応型品種設計法の開発」

中川 博視（農研機構農業環境研究部門 グループ長）

遺伝子情報などのオミックス情報に基づいて、任意環境条件下の作物の生育収量を説明可能な新たな作物生育予測モデルを構築した。また、モデルを活用して様々な遺伝子ハプロタイプが生育収量に及ぼす効果をシミュレートし、ターゲット環境に適する系統を選抜する品種設計法のプロトタイプを開発した。地球温暖化と気象の年次変動がもたらす生産の不安定性に対して、頑健で多収な品種の設計を目指している。日本水稲品種交雑集団で大規模な分離集団の育成と連鎖地図作成、日本水稲品種集団における農業形質の遺伝子のカタログ化を完了し、今後、それらの材料とデータを使用したモデルの検証と改良を行う予定である。